

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	人間の尊厳と自立				担当教員名	君嶋 博明			
実務経験等		湘南医療福祉専門学校を設置する学校法人彩煌学園理事長。令和2年より25年以上運営に携わってきた社会福祉法人湘南遊愛会でも理事長に就任し特別養護老人ホームや軽費老人ホーム、居宅介護支援事業所等の運営を行っている。県内専門学校が取り組むべきLGBTへの運営提言や神奈川県教育委員会と連携したインクルーシブ教育実践推進校に通う生徒へのキャリア支援など人権や尊厳をテーマにした活動についての陣頭指揮は多年に渡る。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。									
到達目標		・ 尊厳保持は、介護福祉における人間理解の第一原理であることを理解する。 ・ 介護福祉における利用者の「尊厳」や「自立」の意義を理解する。 ・ 多様な人間観、自立観を受けとめ、他者の価値観を理解し、共感できるようになる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規出版）						評価方法		筆記試験	
授業内容											
1	オリエンテーション					9	身体的自立とその支援				
2	人間とは・人間の尊厳					10	精神的自立とその支援				
3	人間尊重の法的根拠と社会福祉					11	社会的自立とその支援				
4	人間の尊厳と人権・福祉理念①					12	自立の概念②				
5	「自立」と「自律」					13	自己決定、自己選択				
6	人間の尊厳と人権・福祉理念②					14	リビングウィル、権利擁護、アドボカシー				
7	ノーマライゼーション、QOL					15	まとめ				
8	自立の概念①										
特記事項		各回終了後、振り返りとミニテストを実施									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	人間関係とコミュニケーション				担当教員名		樋口 洋一		
実務経験等		特別養護老人ホームで介護職員として従事。介護主任を経て生活相談員として施設全体をサポート。2022年4月よりケアワーカー長兼相談員かつ施設ケアマネジャー部門長を経験し現在に至る。2016年～5年間、福祉系専門学校非常勤講師も兼任している。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		介護福祉士の専門性と役割において、自己を理解し、対人支援関係の形成するためのコミュニケーション方法を学ぶ。また、実践において必要となるチームマネジメントの考え方、知識や姿勢のあり方を学ぶ。									
到達目標		・ 対人関係に必要な人間の関係性を理解する。 ・ 支援関係に必要なコミュニケーションの基本的な知識を習得する。 ・ 上記、2つの目標に対し講義とグループワークを交えながら学んでいく。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規出版）						評価方法		筆記試験・授業内の演習や課題への取り組み 態度・レポート	
授業内容											
1	オリエンテーション					9	対人関係におけるコミュニケーション② 言語・非言語コミュニケーション				
2	支援関係とは					10	対人関係におけるコミュニケーション③ 言語・非言語コミュニケーション実践				
3	介護福祉士に求められる支援の視点					11	対人関係におけるコミュニケーション④ 環境の重要性				
4	自己理解					12	対人関係におけるコミュニケーション⑤ 対人支援の基本的態度				
5	他者理解					13	バイスティックの原則				
6	人間関係とストレス					14	組織におけるコミュニケーション				
7	ヒューマンサービスと支援関係					15	振り返り				
8	対人関係におけるコミュニケーション① 概念										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	社会の理解				担当教員名		熊谷 崇		
実務経験等		介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		個人が「自立した日常生活」を営むということを理解する。個人・家族・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。同時に我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。									
到達目標		・社会の急速な高齢化、ライフスタイルの多様化といった現代社会の特徴を理解する。 ・自助・互助・共助・公助といった多元的かつ重層的な支援のあり方を学ぶ。 ・介護福祉に関する制度の大きな転換である社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の設立といった背景を学び、基礎的知識を介護福祉実践に必要とされる観点から習得する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規出版） 社会福祉小六法2025〔令和7年版〕（ミネルバ書房）						評価方法		筆記試験 随時試験	
授業内容											
1	オリエンテーション 社会とは何か					9	コミュニティとは何か				
2	社会の高齢化とは何か①					10	コミュニティの再構築にむけての取り組みとは何か				
3	社会の高齢化とは何か②					11	社会における組織の概念				
4	家族とは何か					12	組織の機能①				
5	家族の機能とは何か					13	組織の機能②				
6	家族の変遷					14	福祉多元主義とは何か①				
7	「家族介護」とは何か①					15	福祉多元主義とは何か②				
8	「家族介護」とは何か②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	社会の理解				担当教員名		熊谷崇		
実務経験等		介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		個人が「自立した日常生活」を営むということを理解する。個人・家族・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。同時に我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。									
到達目標		・社会の急速な高齢化、ライフスタイルの多様化といった現代社会の特徴を理解する。 ・自助・互助・共助・公助といった多元的かつ重層的な支援のあり方を学ぶ。 ・介護福祉に関する制度の大きな転換である社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の設立といった背景を学び、基礎的知識を介護福祉実践に必要とされる観点から習得する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規出版） 社会福祉小六法2025〔令和7年版〕（ミネルバ書房）						評価方法		筆記試験 随時試験	
授業内容											
1	社会保障制度のしくみの基礎的理解①					9	高齢者福祉制度の変遷				
2	社会保障制度のしくみの基礎的理解②					10	社会福祉基礎構造改革とは何か				
3	医療保険制度とは何か					11	介護保険制度の理念と目的				
4	年金保険制度とは何か					12	介護保険制度と措置制度				
5	労働保険制度とは何か					13	介護保険制度のしくみ①				
6	生活保護制度とは何か					14	介護保険制度のしくみ③				
7	公的扶助制度の変遷					15	介護保険制度のしくみ③				
8	措置制度とは何か										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	昭和期の生活理解				担当教員名	藤井 寿和			
実務経験等		2003年～現在に至るまで、介護の仕事に従事。 都市部と地方の介護事業で、様々なご利用者に接し、介護を通してご利用者より生の授業を受けてきた。 生の授業経験を元に、「高齢者は生きる図書館」をモットーに、複数の専門学校や介護の資格のスクールで、非常勤講師を務めている。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		利用者を理解するにあたり、利用者の生活背景を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力習得できるよう講義する。									
到達目標		高齢者が過ごしてきた時代や社会の姿、風習を学ぶことで、利用者の多様な価値観や生活への想いを理解できる。									
使用教材								評価方法		筆記試験、レポート	
授業内容											
1	初めに(昭和の歴史を学ぶ意味、「聞き取り発表」について、介護の歴史)					9	平成、令和の日本				
2	日本の地域を学ぶ(レクリエーション活動)					10	昭和を感じる活動創作				
3	昭和の歴史を学ぶ①					11	聞き取りまとめ①				
4	昭和期前半を考える(レクリエーション活動)					12	聞き取りまとめ②				
5	昭和の歴史を学ぶ②					13	聞き取り発表①				
6	「聞き取り発表」の方法、具体例					14	聞き取り発表②				
7	聞き取り発表の検討、準備①(グループワーク)					15	聞き取り調査のまとめ (グループワーク)				
8	聞き取り発表の検討、準備②(グループワーク)					16	レポート作成 聞き取り発表(予備日)、まとめ				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護における文章・記録				担当教員名		木村 智浩		
実務経験等		中学校、高等学校（国語）講師として20年勤務。 小論文指導の経験から、他人にわかりやすく、的確に伝えることのできる文章力が身につく授業を行う。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		論理的文章の構成を理解したうえで、介護における文章や記録を適切に書く記述力、他者に伝わる文章力を学ぶ。									
到達目標		社会人としてはもちろん、介護の現場において必要な文章力や表現力、他者に分かりやすい記録の方法などを学び、実習の日誌が論理的に書けるようになる。									
使用教材		テキストは使用しない。資料を配布する。 国語辞典（電子辞書可）を用意しておくとい。						評価方法		筆記試験（小論文を含む）	
授業内容											
1	オリエンテーション、グループワーク					9	グループワーク				
2	コミュニケーションの基礎					10	敬語を使ったコミュニケーション				
3	自己表現・文体について					11	敬語の使い分けについて				
4	原稿用紙の使い方					12	論理的な文章の書き方				
5	文章の構成					13	論理的な文章を書く①				
6	文章表現①					14	論理的な文章を書く②				
7	文章表現②					15	既習事項の復習・まとめ				
8	文章の推敲										
特記事項		積極的な授業参加、発言を期待します。									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護における文章・記録				担当教員名	木村 智浩			
実務経験等		中学校、高等学校（国語）講師として20年勤務。 小論文指導の経験から、他人にわかりやすく、的確に伝えることのできる文章力が身につく授業を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		論理的文章の構成を理解したうえで、介護における文章や記録を適切に書く記述力、他者に伝わる文章力を学ぶ。									
到達目標		社会人としてはもちろん、介護の現場において必要な文章力や表現力、他者に分かりやすい記録の方法などを学び、実習の日誌が論理的に書けるようになる。									
使用教材		テキストは使用しない。資料を配布する。 国語辞典（電子辞書可）を用意しておくとい。						評価方法		筆記試験（小論文を含む）	
授業内容											
1	実習日誌の書き方					9	グループワーク				
2	実習日誌を書く①					10	ディベートの効用				
3	実習日誌を書く②					11	介護におけるコミュニケーション①				
4	実習日誌を書く③					12	介護におけるコミュニケーション②				
5	履歴書の書き方					13	課題小論文の書き方				
6	履歴書を書く					14	課題小論文を書く				
7	手紙の書き方					15	既習事項の復習・まとめ				
8	手紙を書く										
特記事項		積極的な授業参加、発言を期待します。									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅰ				担当教員名	熊谷崇			
実務経験等		介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。									
到達目標		・介護の成り立ちや介護の概念の変遷、介護の基本理念から尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念の習得をする。 ・介護福祉士の役割と機能、介護実践における倫理をについて、基本的な専門職としての視点を養う。 ・協働する多職種の役割と機能の必要性について、基礎的な知識を習得する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規出版） 社会福祉小六法2025〔令和7年版〕（ミネルバ書房）						評価方法		筆記試験 随時試験 授業態度	
授業内容											
1	オリエンテーション 介護福祉学とは何か					9	社会福祉士及び介護福祉士法とは何か①				
2	介護福祉の理念①尊厳を支える介護①					10	社会福祉士及び介護福祉士法とは何か②				
3	介護福祉の理念①尊厳を支える介護②					11	社会福祉士及び介護福祉士法とは何か③				
4	介護福祉の理念①尊厳を支える介護③					12	社会福祉士及び介護福祉士法とは何か④				
5	介護福祉の理念②自立を支える介護①					13	介護に関する制度の変遷～2000年以前～				
6	介護福祉の理念②自立を支える介護②					14	介護に関する制度の変遷～2000年以降～				
7	介護福祉を取り巻く状況①					15	前期のまとめ				
8	介護福祉を取り巻く状況②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅰ				担当教員名	熊谷崇			
実務経験等		介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。									
到達目標		・介護福祉士に求められている役割について理解できる。 ・ICFの視点に立った利用者の支援のあり方を理解できる。 ・介護における倫理について理解を深め、行動時の根幹に据えることができる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規出版） 社会福祉小六法2025〔令和7年版〕（ミネルバ書房）						評価方法		筆記試験 随時試験 授業態度	
授業内容											
1	介護福祉士の活動の場と役割 地域包括ケア					9	ICFを活用した介護とは何か②				
2	介護予防とは何か					10	介護における意思決定支援				
3	介護福祉に関するキャリアパス					11	介護福祉における倫理①				
4	チームリーダーとしての介護福祉士					12	介護福祉における倫理②				
5	介護福祉に関する団体					13	介護福祉における倫理③				
6	その人らしい生活の実現に向けた支援のあり方と最新の動向					14	介護の専門性とは何か①				
7	その人らしい生活の実現に向けた支援のあり方とは何か					15	介護の専門性とは何か②				
8	ICFを活用した介護とは何か①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅱ				担当教員名		川村 亜希		
実務経験等		介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標		・私たちの生活は「時間・空間・生活リズム」が相互に関連し構成されていることを理解する。 ・私たちの生活を構成する要素・特性について理解する。 ・介護福祉を必要とする人たちのその人らしさや生活の多様性についてを理解する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規出版）						評価方法		筆記 レポート	
授業内容											
1	オリエンテーション					9	【介護福祉職を必要とする人たちの暮らし】介護福祉職を必要とする障害者の暮らし				
2	介護のイメージ					10	その人らしさと生活ニーズの理解				
3	介護のイメージ発表					11	【生活のしづらさの理解とその支援】生活のしづらさについて考える				
4	【私たちの生活の理解】生活とは何か					12	【生活のしづらさの理解とその支援】家族介護者への支援				
5	【私たちの生活の理解】生活の特性（地域特性・調べ）					13	利用者の生活を支えるしくみ				
6	【私たちの生活の理解】生活の特性（地域特性・発表）					14	地域包括ケアシステム				
7	【私たちの生活の理解】生活の特性（地域特性・発表）					15	まとめ				
8	【介護福祉職を必要とする人たちの暮らし】介護福祉職を必要とする高齢者の暮らし										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅱ				担当教員名		川村 亜希		
実務経験等		介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。									
到達目標		・生活を支えるフォーマルサービス・インフォーマルサービスの特徴を理解する。 ・地域福祉の目的、意義、団体、担い手について理解する。 ・多職種連携・協働に求められる基本的な能力について理解する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験 レポート	
授業内容											
1	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					9	地域連携				
2	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					10	多職種・協働の必要性				
3	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					11	多職種連携・協働に求められる基本的な能力				
4	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					12	保健・医療・福祉職の役割と機能				
5	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					13	健康管理の意義と目的				
6	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					14	労働環境の整備				
7	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス					15	まとめ				
8	生活を支えるインフォーマルサービス										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	コミュニケーション技術				担当教員名		野本 義則		
実務経験等		病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務・作業療法士として長年病院という医療現場に従事した経験から、コミュニケーション論について講義を行う。・作業療法士として長年、介護保険領域のリハビリテーションに従事した経験から、発達と老化の理解について講義を行う。保健医療学博士。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。									
到達目標		・コミュニケーションの基本について学び、介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解する。 ・講義や演習を踏まえ、傾聴、質問、相談の技法などさまざまなコミュニケーションの技法の要点を意識して他者と関わるができる。 ・対象者の特性に応じたコミュニケーションとは何かを理解し、個々に応じた対応を考えることができる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規出版）						評価方法		筆記試験・授業内の実習や課題への取り組み態度、これらを総合的に判断する	
授業内容											
1	オリエンテーション グループ学習について コミュニケーションとは					9	集団におけるコミュニケーション				
2	介護におけるコミュニケーションの対象					10	集団におけるコミュニケーション 回想法				
3	支援関係とコミュニケーション					11	家族とのコミュニケーション				
4	自己理解					12	傾聴				
5	受容共感					13	質問				
6	共感的理解					14	傾聴のスキル				
7	言語 非言語 準言語					15	意向の調整				
8	動機づけ リフレーミング										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅰ				担当教員名		佐藤 佐代子、中野 都子		
実務経験等		佐藤先生：人間ドックに付随する栄養相談室にて予防栄養、病態栄養についての栄養相談を管理栄養士として5年勤務。 病院の疾病別の献立作成に管理栄養士として5年勤務。特別養護老人ホームに、管理栄養士として栄養管理をし、17年勤務する。一人ひとりの幸福を栄養、食事を通して考える授業を行う。 中野先生：共同生活介護施設にて、支援員として3年勤務。高等学校・介護系高等専修学校・専門学校で非常勤講師として30年勤務。年々変化するライフスタイルをふまえ、自分自身が生活に必要な知識や技術を身に付け、自立へとつなげる授業を行う。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要		生活はその人の生活歴や価値観によって多種多様であることを理解するために、家事、献立と栄養・調理、被服の役割と管理、居住環境の整備等、個々の多様な生活習慣に応じた支援のあり方を学ぶ。									
到達目標		・生活支援（家事支援）の意義と目的を理解できる。 ・高齢者の食生活等の基本的な知識を理解できる。 ・高齢者の住環境に関する基本的な知識を理解できる。 ・自立に向けた家事の介護に関する基本的な知識を理解できる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験、実技小テスト	
授業内容											
1	オリエンテーション 介護福祉士の仕事とは					16	家事の介護における多職種との連携				
2	生活支援の基本的な考え方について					17	居住環境の整備 1）住まいの役割と機能				
3	生活支援の基本 摂食・嚥下機能について					18	居住環境の整備 2）生活空間				
4	嚥下食とは 嚥下食ピラミッドとは					19	住環境の整備 3）加齢と生活空間				
5	自立に向けた家事の介護について					20	住環境の整備 4）高齢者・障害者の住まい				
6	高齢者の食事について グループワーク、夕食作りについて					21	自立に向けた家事の介護 1）洗濯の介護				
7	高齢者の水分管理について 脱水症とは					22	自立に向けた家事の介護 2）洗濯の介護				
8	熱中症とは 熱中症の予防について					23	自立に向けた家事の介護 3）被服管理				
9	食品の保存 消費期限、賞味期限について					24	自立に向けた家事の介護 4）掃除・ごみ捨ての介護				
10	食中毒の種類 予防法について					25	自立に向けた家事の介護 5）掃除・ごみ捨ての介護				
11	高齢者の食生活 栄養素について					26	●実習－裁縫の介護 衣生活（基礎縫い）				
12	ビタミン、ミネラルについて					27	●実習－裁縫の介護 衣生活（基礎縫い）				
13	トロミ、やわらか食について					28	●実習－裁縫の介護 衣生活（基礎縫い）				
14	食塩について グループワーク					29	衣生活（基礎縫い） 基礎縫いを利用して作品を仕上げる				
15	買い物の介護 グループワーク					30	まとめと復習 試験の説明				
特記事項											

授業要綱

湘南医療福祉専門学校

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ				担当教員名		神田 菜智、濱本 美乃		
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識・技術及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 濱本先生：特別養護老人ホームやグループホーム、訪問介護において、介護職員のほか管理者や介護支援専門員として10年従事。さらに初任者研修、実務者研修等の講師を13年以上務めている。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要		尊厳が保持され、自立した日常生活の実現に向けて、根拠に基づいた介護実践を学ぶ。									
到達目標		・あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠を理解する。 ・介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 ・利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ・利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版） 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験 実技試験 レポート	
授業内容											
1	オリエンテーション					16	移動：ボディメカニクスの実践③				
2	生活支援の理解					17	移動：ボディメカニクスの実践④				
3	ベッドの物品と使用方法					18	移動：ボディメカニクスの実践⑤				
4	ベッドメイキングの実践①					19	移動：杖歩行介助の実践①				
5	ベッドメイキングの実践②					20	移動：杖歩行介助の実践②				
6	ベッドメイキングの実践③ 実技試験告知と練習					21	移動：杖歩行介助の実践③				
7	ベッドメイキングの実践④ 実技試験練習					22	移動：車いすの名称と使い方				
8	ベッドメイキングの実践⑤ 実技試験練習					23	移動：車いす介助の実践①				
9	ベッドメイキングの実技試験と講評					24	移動：車いす介助の実践②				
10	ベッドメイキングの実技試験と講評					25	福祉用具の種類				
11	高齢者体験					26	移動：実技試験告知と練習				
12	高齢者体験（レポート）					27	移動の実技試験練習				
13	移動：移動の意義と目的					28	移動の実技試験練習				
14	移動：ボディメカニクスの実践①					29	移動の実技試験と講評				
15	移動：ボディメカニクスの実践②					30	移動の実技試験と講評				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ				担当教員名		濱本 美乃、神田 菜智		
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識・技術及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 濱本先生：特別養護老人ホームやグループホーム、訪問介護において、介護職員のほか管理者や介護支援専門員として10年従事。さらに初任者研修、実務者研修等の講師を13年以上務めている。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要		尊厳が保持され、自立した日常生活の実現に向けて、根拠に基づいた介護実践を学ぶ。									
到達目標		・あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ・介護実践の根拠を理解する。 ・介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 ・利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ・利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版） 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験 実技試験 レポート	
授業内容											
1	前期実技試験解説					16	入浴・清潔保持の介護 洗髪の実際				
2	後期ガイダンス・身支度の介護					17	食事の介護				
3	身支度の介護 前開きパジャマ・かぶり上衣					18	食事の介護 水分摂取の実際				
4	身支度の介護 ズボン、上下更衣（座位）					19	食事の介護 座位での介助				
5	身支度の介護 座位での上下更衣					20	食事の介護 臥位での介助				
6	身支度の介護 臥位での上下更衣					21	身支度の介護 口腔ケア（座位）				
7	身支度の介護 臥位での上下更衣					22	身支度の介護 口腔ケア（臥位）				
8	身支度の介護 寝巻の更衣・寝衣のあれこれ					23	排泄の介護				
9	入浴・清潔保持の介護 自立した入浴・清潔保持とは					24	排泄の介護 おむつ吸水の実験				
10	多職種との連携 入浴の実際					25	入浴・清潔の介護 入浴体験				
11	入浴・清潔保持の介護 清拭の実際					26	入浴・清潔の介護 入浴体験				
12	入浴・清潔保持の介護 清拭の実際					27	排泄の介護 トイレでの介護				
13	入浴・清潔保持の介護 足浴の実際					28	排泄の介護 ポータブルトイレでの排泄				
14	入浴・清潔保持の介護 足浴の実際					29	実技試験・講評				
15	入浴・清潔保持の介護 洗髪の実際					30	実技試験・講評				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護過程				担当教員名		神田 菜智		
実務経験等		介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要		本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を理解するために介護過程に関する基礎的な知識を学ぶ。									
到達目標		・介護過程の展開が利用者の個別ケア実践になぜ必要なのか理解できる。 ・利用者の全体像を把握する観察力（客観的情報・主観的情報）を身につけることができる。 ・利用者にかかわる介護福祉職と関係職種が共通の目標をもってケアを実践する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規出版）						評価方法		筆記試験 レポート	
授業内容											
1	介護過程とは					9	情報の解釈、関連付け、統合化				
2	介護過程の意義					10	悪い方向性への予測と良い方向性への予測				
3	介護過程の展開とICF					11	課題の明確化、課題の表現の仕方				
4	認知症の利用者の真のニーズの捉え方					12	課題の優先順位				
5	アセスメント演習、推測する					13	長期目標と短期目標				
6	根拠のある推測、予測					14	具体的支援内容				
7	専門知識で統合、演習					15	計画準備シート（計画の枠組み）				
8	その人らしい情報で解釈、演習					16	演習①（事例：アセスメント）				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習				担当教員名	神田 菜智、熊谷崇			
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		介護実習の教育効果を向上させるため、事前及び事後学習並びに実習期間中の実践的指導を通じて、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。									
到達目標		・介護実習の重要性について理解できる。 ・介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 ・介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解できるようになる。 ・習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。 ・介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）						評価方法		課題の提出状況、授業態度	
授業内容											
1	オリエンテーション・科目の意義、実習のスケジュール					9	実習の心構え				
2	実習Ⅰ-①の目的と意義					10	実習前オリエンテーション・巡回職員顔合わせ				
3	学生調書の作成					11	実習日誌の確認・実習状況の確認				
4	実習施設・事業所の事前学習					12	実習日誌の確認・実習状況の確認				
5	実習施設・事業所の事前学習					13	実習Ⅰ-②の目的と意義、学生調書の作成				
6	実習Ⅰ-①の目的と個人の目標					14	実習Ⅰ-①の振り返り				
7	実習記録（日誌）の目的と意義					15	実習Ⅰ-①の自己評価				
8	実習記録（日誌）の目的と意義										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習			担当教員名		神田 菜智、熊谷 崇			
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		介護実習の教育効果を向上させるため、事前及び事後学習並びに実習期間中の実践的指導を通じて、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。									
到達目標		・介護実習の重要性について理解できる。 ・介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 ・介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解できるようになる。 ・習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。 ・介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）						評価方法		課題の提出状況、授業態度	
授業内容											
1	実習Ⅰ-②の目標と個人目標					9	レクリエーション計画・実習の確認				
2	実習日誌					10	レクリエーション計画・実習の確認				
3	実習の心構え					11	介護福祉実践に関する発表に向けた総合的学習				
4	レクリエーション計画・実習の確認					12	実習Ⅱ-①概要				
5	レクリエーション計画・実習の確認					13	事例報告を通じた個別ケアのあり方に関する総合的学習				
6	レクリエーション計画・実習の確認					14	実習Ⅱ-①学生調書作成				
7	介護福祉に関する多業種の参画と福祉器具の動向と実際①					15	実習Ⅰ-②振り返り				
8	介護福祉に関する多業種の参画と福祉器具の動向と実際②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習 通年			担当教員名	神田 菜智、熊谷崇				
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	通年	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		介護実習の教育効果を向上させるため、事前及び事後学習並びに実習期間中の実践的指導を通じて、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。									
到達目標		・介護実習の重要性について理解できる。 ・介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。 ・介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解できるようになる。 ・習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術を身につけられる。 ・介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）						評価方法		課題の提出状況、授業態度	
授業内容											
1	実習Ⅱ-①事前オリエンテーション					9	実習状況に関する個別指導 帰校日①				
2	実習Ⅱ-①目標					10	実習状況に関する個別指導 帰校日②				
3	実習Ⅱ-①心構え					11	実習状況に関する個別指導 帰校日②				
4	実習Ⅱ-①情報収集シートの進め方					12	実習状況に関する個別指導 帰校日③				
5	実習Ⅱ-①情報収集シートの進め方					13	実習状況に関する個別指導 帰校日③				
6	実習Ⅱ-①事前オリエンテーション					14	実習Ⅱ－①の振り返り①				
7	実習Ⅱ-①事前オリエンテーション					15	実習Ⅱ－①の振り返り②				
8	実習状況に関する個別指導 帰校日①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護実習Ⅰ				担当教員名		介護 専任		
実務経験等											
年次	1学年	開講期	前期	種別	外部実習	時間数	60時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		地域における利用者の生活を目の当たりにすることで、本人や家族とのコミュニケーションのあり方や生活支援を行う基礎的な能力の習得及び多様な職種の関わりへの理解に向けて実習をする。									
到達目標		・コミュニケーションをとり、利用者および職員と人間関係を築くことができる。 ・利用者の生活に関心を持ち、生活環境や1日の過ごし方を知る。 ・安全と安楽（快適）に留意し、基本的介護技術を体験する（見学を含む）。 ・実習生の視点から観察、記録、報告ができる。自分の体験を、記録を通し考察することができる。 ・実習施設・事業所の概要、実習施設の特性を知る。介護職の役割と業務内容を理解する。									
使用教材						評価方法		実習指導者評価、提出物の提出状況、 実習態度を総合的に評価する			
授業内容											
実習Ⅰ－①（10日間）			多様な施設・事業所において施設・事業所の役割・機能、利用者の生活像を理解する実習								
実習Ⅰ－②（11日間）			1か所の施設・事業所で継続的に実施することにより、利用者の生活像を理解し、見学や実践を通じて基本的な生活支援技術を理解する実習								
実習Ⅱ－①（15日間）			実践を通じた基本的な生活支援技術、変則勤務や多職種連携のあり方、介護過程における情報収集を通じた利用者の多面性を理解する実習。								
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護実習Ⅰ（1年後期）				担当教員名	介護 専任			
実務経験等											
年次	1学年	開講期	後期	種別	外部実習	時間数	208時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		地域における利用者の生活を目の当たりにすることで、本人や家族とのコミュニケーションのあり方や生活支援を行う基礎的な能力の習得及び多様な職種の関わりへの理解に向けて実習をする。									
到達目標		・コミュニケーションをとり、利用者および職員と人間関係を築くことができる。 ・利用者の生活に関心を持ち、生活環境や1日の過ごし方を知る。 ・安全と安楽（快適）に留意し、基本的介護技術を体験する（見学を含む）。 ・実習生の視点から観察、記録、報告ができる。自分の体験を、記録を通し考察することができる。 ・実習施設・事業所の概要、実習施設の特性を知る。介護職の役割と業務内容を理解する。									
使用教材						評価方法		実習指導者評価、提出物の提出状況、実習態度を総合的に評価する			
授業内容											
実習Ⅰ－①（10日間）			多様な施設・事業所において施設・事業所の役割・機能、利用者の生活像を理解する実習								
実習Ⅰ－②（11日間）			1か所の施設・事業所で継続的に実施することにより、利用者の生活像を理解し、見学や実践を通じて基本的な生活支援技術を理解する実習								
実習Ⅱ－①（15日間）			実践を通じた基本的な生活支援技術、変則勤務や多職種連携のあり方、介護過程における情報収集を通じた利用者の多面性を理解する実習。								
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	発達と老化の理解				担当教員名		野本 義則		
実務経験等		病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務（入所リハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）。保健医療学博士。作業療法士として病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標		・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの段階における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な+10:17疾病について理解する。 ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解（中央法規出版）						評価方法		筆記試験	
授業内容											
1	老年期の定義 老化とは 老年期をめぐる今日的課題					9	高齢者に多い疾患 パーキンソン病				
2	老化に伴う心身的な変化①					10	高齢者に多い疾患 皮膚・感覚器系				
3	老化に伴う心身的な変化②					11	高齢者に多い疾患 消化器系・腎泌尿器				
4	老化に伴う心理的な変化①					12	高齢者に多い疾患 内分泌・代謝系				
5	老化に伴う心理的な変化②					13	高齢者に多い疾患 歯・口腔疾患				
6	老化に伴う社会的な変化					14	高齢者に多い疾患 悪性新生物				
7	健康長寿に向けての健康 高齢者の症状・疾患の特徴					15	高齢者に多い疾患 感染症				
8	高齢者に多い疾患 脳血管障害										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	認知症の理解				担当教員名		松橋 あけみ		
実務経験等		デイサービスにて相談員として6年、地域包括支援センターに社会福祉士として11年勤務。社会福祉士として相談業務にあたっていた経験から、高齢になっても、障害があったとしても住み慣れた地域で生活していく為に必要な支援等について理解を深める授業を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。									
到達目標		・ 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 ・ 認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解（中央法規出版）						評価方法		筆記試験	
授業内容											
1	・ 授業概要の説明 ・ 認知症の基礎知識について					9	中間テスト、解説				
2	・ 認知症の全体像をとらえる・認知症の定義と診断基準 ・ 初期に生じる生活障害・症状の全体、特徴の理解					10	・ 中間テストの振り返り ・ 認知症の原因疾患の病態や症状の理解				
3	・ 脳の構造機能と症状の関係の理解・認知症と区別すべき状態の理解					11	・ 認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、その他）				
4	・ 不安・喪失感を抱く理由の理解					12	・ 治療薬の作用機序や副作用の理解 ・ 予防の考え方、危険因子、保護因子の理解				
5	・ 事例を用いて症状、生活障害の概要の理解 ・ ビデオ「認知症の体験」					13	・ 認知症の施策の流れと今後の方向について ・ 認知症を取り巻く状況の理解				
6	・ 中核症状とは何かを理解 ・ 生活障害の理解					14	・ 認知症の理念と倫理、人とのかかわりについて				
7	・ BPSDの概要と背景要因の理解					15	認知症の人の思いを理解し、支援内容の基本について				
8	・ 認知症の診断要件、重症度の評価の理解										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	こころとからだのしくみ				担当教員名		福地 みか		
実務経験等		看護師として病院、障害者施設で勤務した経験を活かし、介護実践の根拠となる、こころのしくみや人体の構造・機能および介護支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について授業を行う。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		こころのしくみや人体の構造・機能を理解し、心身の機能低下や障害がどのように生活行動に影響するのか、変化に気づくための観察や対応の仕方について学習する。									
到達目標		・こころのしくみや人体の構造・機能を理解することができる。 ・心身の機能低下や障害が、生活行動（移動、身じたく、食事、入浴・清潔、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階）にどのように影響するのか理解することができる。 ・心身の機能低下や障害が生活行動別に及ぼす影響について、変化に気づくための観察や対応の仕方を理解することができる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験	
授業内容											
1	健康とは 障害要因					9	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 身体各部の名称 骨格・骨格筋①				
2	こころのしくみの理解 人間の欲求					10	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 身体各部の名称 骨格・骨格筋②				
3	こころのしくみの理解 自己実現と尊厳					11	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 細胞・遺伝 脳・神経				
4	ころのしくみの基礎 こころとはなにか 脳のしくみ					12	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 感覚器				
5	こころのしくみの基礎 認知・学習・記憶・思考のしくみ					13	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 呼吸器				
6	こころのしくみの基礎 感情・情動、意欲・動機づけのしくみ					14	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 循環器 血液・体液・リンパ液				
7	こころのしくみの基礎 適応と適応機制 欲求 ストレス					15	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 消化器				
8	こころのしくみの基礎 振り返り、まとめ					16	からだのしくみの理解 人体の構造と機能 泌尿器				
特記事項		各回終了時、振り返りとミニテストを実施。									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	こころとからだのしくみ			担当教員名			福地 みか		
実務経験等		看護師として病院、障害者施設で勤務した経験を活かし、介護実践の根拠となる、こころのしくみや人体の構造・機能および介護支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について授業を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		こころのしくみや人体の構造・機能を理解し、心身の機能低下や障害がどのように生活行動に影響するのか、変化に気づくための観察や対応の仕方について学習する。									
到達目標		・こころのしくみや人体の構造・機能を理解することができる。 ・心身の機能低下や障害が、生活行動（移動、身じたく、食事、入浴・清潔、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階）にどのように影響するのか理解することができる。									
使用教材		最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規出版）						評価方法		筆記試験	
授業内容											
1	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事の必要性とこころ 栄養素					9	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ 皮膚の汚れのしくみ 陰部の清潔				
2	食事に関連したこころとからだのしくみ 口腔から食道までのしくみ 摂食と嚥下運動					10	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ 精神・皮膚・運動機能の変化と影響				
3	食事に関連したこころとからだのしくみ 治療食					11	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ 心疾患や呼吸器疾患などがある場合の影響				
4	精神・加齢・病気による機能低下が食事に及ぼす影響					12	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔での観察ポイント 医療職との連携				
5	食事に関連したこころとからだのしくみ 障害による機能低下 全身的な機能低下					13	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排泄行為とこころ				
6	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事での観察ポイント 医療職との連携					14	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排尿のしくみ				
7	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔保持の意味 清潔がもたらす効果					15	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排便のしくみ				
8	入浴・生活に関連したこころとからだのしくみ 皮膚のしくみ 発汗のしくみ					16	排泄に関連したこころとからだのしくみ 人工膀胱 人工肛門のしくみ				
特記事項		各回終了時、振り返りとミニテストを実施。									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動				担当教員名		神田 菜智、熊谷崇		
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		社会人になるためのマナーの理解及び学校行事等への参加を通じて他者との協働のあり方を学ぶ。									
到達目標		社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を理解できる。									
使用教材								評価方法		出席状況 参加姿勢により評価	
授業内容											
1	社会人になるために在学中から意識したい校内でのマナー					9	行事を通じた他者とのコミュニケーション①				
2	オリエンテーション					10	行事を通じた他者とのコミュニケーション②				
3	オリエンテーション					11	読む・書く・発表することの意義と実践④				
4	ICTの活用とICTリテラシー					12	読む・書く・発表することの意義と実践⑤				
5	自己学習の進め方					13	介護福祉士取得後の展望を思い描く①				
6	読む・書く・発表することの意義と実践①					14	介護福祉士取得後の展望を思い描く②				
7	読む・書く・発表することの意義と実践②					15	介護福祉士取得後の展望を思い描く③				
8	読む・書く・発表することの意義と実践③										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動				担当教員名		神田 菜智、熊谷崇		
実務経験等		神田先生：介護福祉士として認知症型グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、小規模多機能型居宅介護支援事業所において通算6年の実務経験を有する。基本的知識及び今までの経験に基づき、介護現場の実際や課題について自ら考え、動くことができる人材育成に向けた授業を行う。 熊谷先生：介護福祉士として特別養護老人ホーム及び通所介護において5年の実務経験、並びに介護福祉学・社会福祉学・法学の学際的研究を10年以上重ねた経験を有する。学士（法学）、修士（社会福祉学）。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		社会人になるためのマナーの理解及び学校行事等への参加を通じて他者との協働のあり方を学ぶ。									
到達目標		社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を理解できる。									
使用教材								評価方法		出席率 参加姿勢により評価	
授業内容											
1	前期の振り返りと後期の目標					9	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑦				
2	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働①					10	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑧				
3	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働②					11	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑨				
4	介護福祉に関する動向とこれから					12	多文化への理解とコミュニケーション①				
5	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働③					13	多文化への理解とコミュニケーション②				
6	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働④					14	多文化への理解とコミュニケーション③				
7	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑤					15	1年間の振り返り				
8	行事の企画・運営におけるコミュニケーションと協働⑥										
特記事項											